

京都大学修士（理学）

親川千紗子：ニホンザルにおける採血協力訓練法の確立

高橋知子：飼育下ニホンザルにおける肥満とその生理学的解析

託見健：マカクサル小脳における神経栄養因子免疫陽性構造の発達にともなう変化

西村宏久：ニホンザルコドモメスの社会交渉

林美里：チンパンジーの対象操作にみる認知発達

楢垣小百合：放飼場ニホンザル群の捕獲域誘導法の確立に向けて

松野響：チンパンジーにおける運動の視覚探索

山田彩：農地及び森林の食物利用可能性がニホンザル (*Macaca fuscata*) の環境選択に与える影響

4. 外国人研究員・研究生

外国人研究員

氏名：Sachithanantham Srikantha（スリランカ民主社会主義共和国）

受入区分：人類進化モデル研究センター 客員教授

研究課題：小サル類の日内行動リズムの比較研究

招へい期間：2003年4月1日～2004年3月31日

特別研究学生

氏名：Rattanaorn Hanta

受入教官：濱田穰

研究題目：東南アジア後期新生代の化石哺乳類の分類学的研究

受入期間：2003年10月1日～2004年9月30日

招へい外国人学者・外国人共同研究者

氏名：Sousa, Claudia（ポルトガル，リスボン大学講師）

受入教官：松沢哲郎

研究課題：チンパンジーの認知機能の実験的研究

招へい期間：2003年6月29日～2003年8月29日

氏名：Wijayanto, Hery（インドネシア，ガジャマダ大学獣医学部 講師）

受入教官：平井啓久

研究課題：アジルテナガザルにおける染色体変異の解析

招へい期間：2003年7月11日～2003年8月9日

氏名：Leca, Jean-Baptiste (フランス)

受入教官：マイケル・ハフマン

研究課題：ニホンザルの文化的行動研究

招へい期間：2003年8月9日～2004年8月8日

氏名：Urasopon, Nontakorn (タイ国, ウボンラチャタニ大学農学部・動物科学科・講師)

受入教官：濱田穰

研究課題：霊長類における体組成値の加齢変化に関する研究

招へい期間：2003年9月23日～2003年11月30日

氏名：Boug, Ahmed Ibrahim Yousef (サウジアラビア, 国立野生生物研究センター研究員)

受入教官：森明雄

研究課題：サウジアラビアのマントヒヒの生態資料の分析

招へい期間：2003年10月29日～2003年11月19日

氏名：Morris, Laura Newell (アメリカ合衆国, ワシントン大学 教授)

受入教官：濱田穰

研究課題：ニホンザル骨格の加齢変化研究

招へい期間：2003年10月16日～2003年11月25日

氏名：Wijayanto, Hery (インドネシア, ガジャマダ大学獣医学部講師)

受入教官：平井啓久

研究課題：アジルテナガザルにおける染色体変異の解析

招へい期間：2004年1月7日～2004年2月20日

氏名：黄乘明 (中華人民共和国, 桂林廣西師範大学生物系教師兼所長)

受入教官：竹中修

研究課題：種々の遺伝学的研究方法の修得, 中国希少種の保全生態学研究

招へい期間：2004年1月6日～2004年7月5日

氏名：Malaivijitnond, Suchinda (タイ王国, チュラロンコーン大学理学部助教授)

受入教官：濱田穰

研究課題：タイ国に分布するマカク類の遺伝的多様性研究

招へい期間：2004年3月14日～2004年6月1日

氏名：Urasopon, Nontakorn (タイ王国, ウボンラチャタニ大学農学部講師)

受入教官：濱田穰

研究課題：マカクサル類における内分泌動態と骨密度変化に関する研究

招へい期間：2004年3月22日～2004年6月18日

氏名：李珠美（大韓民国，釜山大学理学部博士候補者）
受入教官：竹中修
研究課題：霊長類における内在性ウイルス遺伝子の研究
招へい期間：2004年3月22日～2004年9月22日

5. 日本人研究員

日本学術振興会特別研究員（PD）

氏名：伊藤（大塚）麻里子
受入教官：竹中修
研修題目：内分泌攪乱物質が雄マカクザルの精子形成に及ぼす影響—ヒト精子形成障害モデルの確立
受入期間：2003年4月1日～2006年6月30日（中断期間：2003年10月1日～2003年12月31日）
今年度は，成熟オスアカゲザルにジエチルスチルベストロールを投与し，内分泌学的な変化を観察した。

氏名：座馬耕一郎
受入教官：上原重男
研修題目：野生チンパンジーにおける利他行動の進化
受入期間：2003年4月1日～2006年3月31日
タンザニア，マハレ山塊国立公園のチンパンジーの行動観察と，シラミ卵密度の推定を行った。

氏名：早川祥子
受入教官：竹中修
研修題目：ニホンザルの群れ間遺伝子交流とその進化
受入期間：2003年4月1日～2006年3月31日
野生ニホンザルにおける他群個体との交尾が群れの遺伝子構成に与える影響に関する研究

氏名：鏝本武久
受入教官：茂原信生
研修題目：ポンダウン層の哺乳類化石の記載と東アジアの新生代前半における哺乳類の進化
受入期間：2003年4月1日～2006年3月31日
ミャンマーから産出する始新世の哺乳類化石および日本から産出した白亜紀の哺乳類化石の記載研究をした。

氏名：半谷吾郎
受入教官：上原重男
研修題目：霊長類の社会構造の進化に環境と系統が与える影響

受入期間：2003年4月1日～2006年3月31日

屋久島上部域のニホンザルが、寒冷で食物資源の少ない環境でどのように適応しているかについて研究を行った。

研究生

氏名：鈴木啓之

受入教官：上野吉一

研究題目：霊長類のエンリッチメントに関する研究

受入期間：2003年4月1日～2004年3月31日

氏名：堀智彦

受入教官：茂原信生

研究題目：化石霊長類の系統と分類について

受入期間：2003年4月1日～2004年3月31日

受託研究員

氏名：佐藤崇

受入教官：中村伸

研修題目：サルモデルでのアレルギー・免疫応答に関する研究

受入期間：2003年4月1日～2004年3月31日

非常勤研究員

氏名：田代靖子

研究テーマ：分子生物学的手法を用いたチンパンジーの種内変異に関する研究

所属分野：遺伝子情報分野

指導教官：竹中修

研究期間：2003年4月1日～2004年3月31日

氏名：下岡ゆき子

研究テーマ：ニホンザルにおけるサブグループの研究

所属分野：社会構造分野

指導教官：杉浦秀樹

研究期間：2003年4月1日～2004年3月31日

氏名：西村剛

研究テーマ：新世界ザルにおける上顎洞形状の変異

所属分野：系統発生分野

指導教官：茂原信生

研究期間：2003年4月1日～2004年3月31日

氏名：早野あづさ

研究テーマ：テナガザル類の種分化・亜種分化に関する遺伝学的解析

所属分野：遺伝子情報分野

指導教官：平井啓久

研究期間：2003年11月1日～2004年3月31日

氏名：川合南海子

研究テーマ：老齢ザルの認知機能と脳変性に関する実験的研究

所属分野：器官調節分野

指導教官：林基治

研究期間：2003年11月1日～2004年3月31日

氏名：茶谷薫

研究テーマ：霊長類における運動の発達と加齢

所属分野：形態進化分野

指導教官：濱田穰

研究期間：2003年12月1日～2004年3月31日

6. 研究支援推進員

(氏名：採用期間)

梅田せつ子：2003年4月1日～2004年3月31日

片岡敦子：2003年4月1日～2003年6月30日

小林陽子：2003年4月1日～2004年3月31日

中野千枝子：2003年4月1日～2004年3月31日

葉栗和枝：2003年4月1日～2004年3月31日

福富憲司：2003年4月1日～2004年3月31日

宮田志保：2003年4月1日～2004年3月31日

加藤みどり：2003年7月1日～2004年3月31日

川本咲江：2003年11月1日～2004年3月31日

金子陽子：2003年11月1日～2004年3月31日

鈴木益廣：2003年11月1日～2004年3月31日

飯田景子：2003年11月1日～2004年3月31日

梅田恵子：2003年11月1日～2004年3月31日

南雲樹：2003年11月1日～2004年3月31日

7. 研究集会

所内談話会

第1回：2003年6月24日（火）

半谷吾郎（生態機構分野）“屋久島のニホンザルの異なる標高帯への生態学的適応”

第2回：2003年7月8日（火）

座馬耕一郎（生態機構分野）“サルとシラミと毛づくろい”

第3回：2003年9月30日（火）

Robert Hampton（NIMH, USA）“Metacognition and explicit representation in nonhumans”

第4回：2003年11月4日（火）

J. M. Koolhaas（Center for Behavioral and Cognitive Neuroscience, University Groningen, The Netherland）“Coping styles and aggression: a biobehavioral approach”

第5回：2003年11月18日（火）

Jon C. Coe（CLRdesign inc., USA）“Recent zoo exhibitions of apes”

第6回：2004年1月21日（水）

江木直子（京大・自然人類学教室）“霊長類の手の構造：樹上生活での把握能力の意義とは？”

第7回：2004年1月28日（水）

鏗本武久（系統発生分野）“ポンダウン化石哺乳類相と始新世の哺乳類相の変遷”

第8回：2004年3月2日（火）

Nathan Wolfe（Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health, USA）“Naturally acquired primate retrovirus infections among Central African hunters”

（文責：相見満）

霊長類総合ゼミナール 2003

日時：2003年12月17日（水）10：35-17：00

会場：京都大学霊長類研究所大会議室

参加者：約40人

概要：霊長類学総合ゼミナールは大学院生TAが中心となって企画、運営に当たっている。本研究会の目的は若手研究者が各自の研究結果と知見を報告する事によって、学術的な交流を深める事である。若

手研究者が一堂に会する稀な機会であり、見識を広める機会として非常に有効であったと思われる。
発表：17の発表があった。演題と発表者を以下に記した。

【口頭発表】

(0-1) 霊長類の椎骨の比較形態と化石種の解釈への応用

Comparative morphology of vertebrae in primates and its application to interpretation of extinct species

山本亜由美

(0-2) 協力すべきか・せざるべきかーひとりでも餌はもらえる，でもふたりで力を合わせるともっと餌がもらえるなら？

To Cooperate or Not to Cooperate · You work alone and you get one, but you and I work together then you get more

中山桂

(0-3) 適応的な行動選択を支える情動

Emotion supports adaptive decision-making

細川貴之

(0-4) ポリネシア人の足の成長

The growth of foot of Polynesian people

権田絵里

(0-5) 分子生物学者が古環境を推定することは可能か？

Can molecular biologists infer the palaeoenvironment?

福原亮史

【ポスター発表】

(P-1) チンパンジーとヒトにおける陰影による奥行知覚：「凸」か「凹」か？

Shape from shading in chimpanzees and humans: Convex or concave?

伊村知子

(P-2) 骨格に残る創傷と原因武器の関係

Morphological relationship between wounds and weapons

大藪由美子

(P-3) アカゲザル扁桃核細胞の視聴覚特性

Audiovisual Properties of Neurons in the Monkey Amygdala

倉岡康治

(P-4) ヒト乳児音声の発達的变化-安静時の音声と泣き声との比較研究

Comparative study of the vocal development between non-distress vocalizations and cries in human infants

香田啓貴・山口智恵子

(P-5) カリンズ森林におけるブルーモンキーとレッドテイルモンキーの混群形成

Association between blue monkeys (*Cercopithecus mitis*) and redtailed monkeys (*C. ascanius*) in the Kalinzu Forest, Uganda

深谷もえ

(P-6) 表情に対する選好性の比較-研究計画-

Preferences for facial expressions (proposal)

木場礼子

(P-7) 長野市宮崎遺跡で発見された縄文晩期の乳児埋葬人骨

Jomon baby skeleton unearthed at the Miyazaki site in Nagano city

藤澤珠織

(P-8) Development of Dominance-Subordinate Relationships among Infants and Yearlings in a Captive Group of Japanese Monkey (*Macaca fuscata*): A preliminary study

Rizaldi

(P-9) Stone handling and object manipulation of Japanese macaques (*Macaca fuscata*) in the captive Takahama troop at PRI, Inuyama.

Charmalie Nahallage

(P-10) 野性ニホンザルのグリマス表出が持つ機能の評価

Evaluation of Function of Grimace Display by the Wild Japanese Macaques (*Macaca fuscata*)

鈴木啓之

(P-11) 運動情報を手掛かりとした形態刺激を用いた図形弁別及び運動方向弁別に関する脳内機構の解明

Neuronal Activities to Discrimination of Shape and Motion Direction of Shape-From-Motion in Macaque Monkey

半田高史

(P-12) 咬耗面による中期中新世の新世界ザル *Mohanamico herskovitzi* の系統的位

Phylogenetic placement of *Mohanamico herskovitzi* on the basis of wear facets

堀智彦

(世話役：TA 打越万喜子，親川千紗子，高橋知子，託見健)

(文責：打越万喜子)